

359)

いさりび
漁火

ここは北國小樽の海は 魚を誘う光が灯り
波の間に間に隠れて消えて 去年の恋が心に浮かぶ
過ぎし日の記憶はめぐり 面影が微笑みかけた
いさりび 漁火は海に揺らいで 思い出が心に灯る

小樽の海は雪がちらちら すべてのを氷にとざし
君と過ごした夏の匂いを とき 時空の彼方に置き去りにした
透き通る海のごとくに 透き通る自分に還り
いさりび 漁火に心は揺れて いさりび 漁火に愛はためらう

小樽の海と向き合いながら 風の合間に口笛吹けば
とどろく海がすべてを消して 凍る大地とひとつになった
暮れなずむ空を上げば 海鳥の群れて飛び交い
いさりび 漁火に心は揺れて いさりび 漁火に愛はためらう

凍てつく風に心さ迷い 酒場の 燈 もの哀しくて
痛む心をおさえるように 小樽の街をひとり歩いた
帰らざる季節の記憶 ひとときの涙にかえて
いさりび 漁火を心に灯し 思い出をさがしていたよ